

第10回 あさご芸術の森大賞展 最終回

2011 ASAGO BIENNALE

大賞

平田隆宏さん

「暗夜の光Ⅰ」

準大賞

川上勉さん

「境界の身体」に決定

朝来市が輩出した洋画家白瀧幾之助、和田三造、青山熊治、彫刻家淀井敏夫など、これらの先人の功績を顕彰するため立体と平面のビエンナーレ展「あさご芸術の森大賞展ASAGO BIENNALE」の立体作品を公募しました。

全国23都道府県の89人の皆さんから99点の作品を応募していただきました。応募していただきましたみなさん、ありがとうございました。

審査会は1次の写真審査を8月26日に、2次の実物審査を11月5日にあさご芸術の森美術館で開催しました。審査員には美術評論家の金澤毅氏、美術評論家で金城学院大学教授の山脇一夫氏、写真家で大阪芸術大学教授の織作峰子氏、彫刻家の植松奎二氏、朝来市民を代表して朝来市長多次勝昭を加え5名で審査を行いました。

1次の写真審査では、2人以上の審査員が推せば通過、次の段階では3人以上の審査員が推せば通過と、通過作品を徐々に絞り込み、20点の入選作品を決定しました。

2次審査では会場に並んだ迫力ある実物作品を前にしながら、大賞、準大賞、優秀賞を選考していきました。審査の結果大賞は平田隆宏さんの「暗夜の光Ⅰ」に、準大賞は川上勉さんの「境界の身体」に決定しました。

見事大賞を受賞された平田さんは「素晴らしい賞をいただき大変嬉しく思います。制作途中迷い続ける日々ですが、今回、朝来から希望の光が届いてきたように感じています。」と喜びの声を聞かせてくれました。

入選、入賞された皆さんおめでとうございます。表彰式は12月11日に美術館で開催されました。



大賞…平田隆宏 作『暗夜の光Ⅰ』

(黒御影石 / 140×80×43cm)

<製作意図>

出口のない悩み続ける毎日であっても、丁寧に努力を積み重ねれば、希望の光が差し込んで最後に笑顔になれる。私はそう信じています。
光り輝く作品を作りました。

未知の形を作り出す意思を感じる。

審査員は、大賞となった平田さんの作品は、「シンプルだが力強さを感じ、石から未知の形を作り出す意思をも感じる。また、光に対する意識が備わっているのも魅力であり、技術的にもレベルが高い作品である。」と講評し、準大賞の川上さんの作品については「棺の中に人体を置くという提示の仕方にうまさを感じる。生命や現代の人間像を考えさせられる作品である。」と語られました。

今回の展示作品については、「素材から発想した作品と、心の中からのイメージーションを表現した作品が程よく混じり、彫刻の楽しさ・可能性がよくわかるバランスの取れた展覧会となった」と審査所感を述べられました。